相原　敏彦さんのページ

好きこそものの上手なれ！

Taitanic号の製作に取り組む相原さん

平成１９年、目出度く？定年退職を向かえ現在に至っております。
退職前に先輩や同僚の皆さんから、「退職後は何か趣味を持って楽しまないと呆けてしまうよ！」と御指導をいただいて、自分が如何に無趣味であると言うことを反省すると共に、何か自分に合う物を探さなくてはと思い、探していた時に、ある書店の店頭に“よみがえる幻の豪華客船”と名売って“Taitanic模型組立てキット”が販売されていました。これは毎週部品が少しづつ販売されそれにそって完成させていくもので最終号が手元に届くまで2年強かかりました。

元来、自分は手が大きく、およそ器用そうには見えませんが、根気強く物事に取り組む方で、子供のころから、プラモデルや版画づくり等、もの造りは好きなほうでしたので、早速購入し子供の頃を思い出し、ワクワクしながら造り始めました。

頭初は会社生活もあり休日のみの製作でした。徐々に進むにつれ加工も増え、模型作りも想像以上に時間が掛かりある時ピタッと止まってしまい、部屋の机の上にツインタワーならぬ部品の山になっていましたが、この模型作りを再開したのは、退職後3ヶ月程経過し、しなければならないことが一段落して時間に余裕が出来るようになってからです。
一大決心して、まずは、船体造りから始めたのですが、ベースになる竜骨・助材（船体の骨格部分）の組立ては、さほど難しくはありませんでしたが、それに側板を貼る工程が3次元での変化のある部分に5ミリ程度の木材を隙間無く貼り付ける必要があり、木材の幅等を加工しながら滑らかに貼らなければならないので非常に時間がかかった所です。船体が完成すると、次はデッキＣ→デッキＢ→デッキＡ→救命艇デッキと階層を積んでいくのですが表面に近づくにつれ、部品も多く繊細な作業が要求され部品の作成にも非常に時間がかかり一時は毎日の作業のため指の関節がおかしくなった程です。部品の大きさもミリ以下のものがけっこうあり、気を使った点でもあります。

その様な悪戦苦闘を重ね完成に至りましたが、今、完成品を見ていますと体験した自分だけにしか判らない事かもしれませんが、いろんな部分で苦労した点が思い出され、それが逆に達成感・満足感として感じております。

模型は本物のTaitanicの250分の1の縮尺モデルで、全長1,076ｍｍ・高さ285ｍｍ・製作期間は5ヶ月。
今、完成品を前に全長271メートル、排水量60,000トンという20世紀初頭の技術を駆使して生まれたTaitanic号が1912年4月14日から15日にかけて衝突事故に遭遇し、1500名もの命と共に沈没したという、あまりにも華麗で、あまりにも悲劇的な運命に思いを寄せながら、そこに自分が一つ一つ組み立てていった工程を重ねながら完成したことへの達成感にひたっている今日この頃です。

製作図を前に

出来ばえとしては満足してます

索引ページへ